

# 2019年度版 振袖トレンドアレンジ 要項

## (1) 課題の内容

- 振袖を着る世代の女子が思わず着たくなるような、真似したくなるような振袖トレンドアレンジをクリエイトする競技
- 「2020年の振袖トレンドアレンジコレクション」をイメージした作品を作り、トータルバランスを競う
- 振袖の着物を使用すること。帯の素材は自由

## (2) 競技の方法

- セット・メイクの競技、長襦袢着付までの競技、振袖着付・帯結びの競技に分けて行う。
- 審査はすべての競技が終了後、ヘア&メイク&着付のトータルで採点される
- モデルは人体とし、プロ・アマは問わない。
- セットの選手・メイクの選手・着付の選手の3人までの参加も可  
(競技中の2人以上の同時施術不可)  
(助手も不可)  
(ヘア・メイク時は1人づつしか競技スペースに入れない)  
(着付室には着付の選手のみしか入れない)
- 着付をする選手の服装は上衣は白のブラウス、下は黒のパンツ(素材は問わない)。  
シンプルで清潔な服装であること。  
(肌の露出の多いものや、透けるもの、ヒラヒラするものは禁止する。着付の邪魔になるようなアクセサリーも禁止)

## (3) 競技時間

競技会場でメイク、セットの作業を60分、控室での長襦袢着付までの作業を20分、競技会場で振袖着付及び帯結び作業、衣装敷をはずし履物を履かせ、ポーズつけまでの20分の合計100分。

## (4) 競技用具の準備(選手が準備するもの)

- ① 振袖(重ね衿または比翼つき)
- ② 袋帯(六通または全通)
- ③ その他、長襦袢や肌着等、作品を作るのに必要と思う物(特に指定なし)
- ④ 着付に必要な小物
- ⑤ ガウン、もしくはクロス ※競技会場で椅子に座った状態で競技するので、他人から膝が見えないように工夫すること。短いガウンの場合はひざ掛けを用意すること。
- ⑥ ヘア用具一式
- ⑦ メイク用具一式
- ⑧ 肩掛け用タオル(無地の白)
- ⑦ 衣装敷き(120cm x 180cm以内)
- ⑧ 衣装箱 通常の衣装箱及びそれに準ずる箱を必ず持参し、大きさは自由。  
※プラスチックの衣裳ケースや手さげ型の衣裳ケースは除く

## (5) 着付け競技に関する注意事項

- ① グループで出場する場合、同時施術や、助手としての使用は禁止する。
- ② 競技終了後、選手はモデルに一切触れてはならない。
- ③ ポーズは自由とする。

## (6) ヘア・メイクに関する禁止事項

- ① モデルがセットのブラシ・ピンなどを選手に渡すこと、メイクのブラシ・筆などを選手に渡すことは禁止とする。
- ② モデル自身による化粧施術は、競技中はもとより、控室でも禁止する。
- ③ 事前にまつげエクステをつけてくることは可。
- ④ **ヘアピース・髪飾りの使用可。あらかじめヘアピースの形を作ってくることも可。**
- ⑤ アミカラー等は事前に巻いて控室に入場し、競技開始までに外しておく。
- ⑥ モデル自身の髪を競技前に編み込んだり、ブロッキングしてはいけない。
- ⑦ メイクは下地クリームもしくはファンデーションから開始する。化粧水・乳液は競技前につけておいてOKとする。

## (7) その他の注意事項

- ① 競技中に2人以上の選手が、モデルに施術または触れることは禁止とする。
- ② 控室にはモデル及び出場者本人以外の立入りを禁止する。
- ③ 競技中道具の貸し借りをしてはならない。
- ④ 忘れ物がある場合は監査員に報告すること。
- ⑤ 携帯電話、スマートフォン、タブレットを競技会場への持込みは禁止とする。控室競技中も持ち物から出すことも禁止とする。タイムを計るためのタイマー・時計は禁止。
- ⑥ 控室、競技会場での電源は使用出来ない。コンセント不要の電気器具については使用を認める。  
(コードレスアイロン、充電式のコテなどはOK)
- ⑧ **モデルの安全と温度調整を考えた準備に留意する。**
- ⑨ 厚底の草履やブーツなどを履かせる場合、控室から競技会場への移動が困難な場合があるため、あらかじめ低めの草履や靴を用意し、競技会場にて履き替えるなどして、モデルさんが安全であるように工夫すること。
- ⑩ **競技会場にて、観客に膝上が見えたり足元が寒かったりしないようにひざ掛けの準備があるとよい。**
- ⑪ **近年振袖を使用し、ドレスと融合させたオリエンタル和装という特殊な着付方があるが、本コンテストの趣旨とはそぐわない為、却下とする。**
- ⑫ **胸や足を大幅に露出することも振袖の品格にそぐわないと判断されるため、前項と同様に却下とする。**

【競技会場 たとう紙、衣装箱、選手靴、モデル草履の配置図】

